

大館試薬センター増設

29年夏の稼働を目指す
6億投資、新規雇用は10人

DNA自動抽出装置製造のプレシジョン・システム・サイエンス(PSS、本社・千葉県)は、試薬開発・製造拠点の「大館試薬センター」(大館市花岡町)を増設する方針を固めた。新たな受注が決まり、当初の製造計画を大きく上回る見込みとなったことから28年3月にも着工し、29年7月操業開始を目指す。投資額は約6億円、新規雇用10人程度を計画している。



増設が計画されているPSS大館試薬センター
(大館市花岡町)

遺伝子やタンパク質検査などの体外診断に使うDNA抽出システムの特許を持ち、装置は主力製品として子会社のエヌピーエス(大館市花岡町)などで製造。大半を海外メーカーにOEM(相手先ブランドによる生産)供給している。国内外の医療機関や検査機関などに導入され、再審無罪となった「足利事件」の解決の手掛かりだけでなく、東日本大震災で犠牲者の身元確認にも応用された。

遺伝子分野の臨床診断分野への実用化が本格化している動向を踏まえ、試薬の研究から装置製造まで一貫した体制を構築できると判断。エヌピーエス敷地内に試薬センターを建設し、昨年11月に本格稼働した。

当初はフランスの医薬品大手エリテックと自社ブランドの試薬製造を計画し、今年2月に操業開始予定だった。その後、アボット社(米国)向けの受注も決定したため3カ月前倒し。初年度の新規雇用は8人から23人に増員した。

現状では受注増に対応しきれないとして増設を計画し、10月に北側の隣接地(6055平方メートル)を取得。鉄骨平屋1546平方メートルのセンターを約900平方メートル拡張し、設備も増強する。

同社は資本金28億8000万円、27年6月期の売上高51億4300万円。長岡信夫センター長は「試薬が今後、売り上げの柱になる」と強調。センターの将来的な雇用は50人超を見込んでいる。